

成ひが事也客衆一通り茶碗見物しあたまりもなき茶碗なるを茶の香をかぐ事無益の所作なりふくのこき薄きを見て下に置べし客茶香をかぐは茶碗のあたまり有内故茶の氣をかぎて可然事也茶碗戻り湯と水と入れ其すぎ湯を主吞事有故實等秘事口傳尊客の時は必吞むべしかへ茶碗杯へうつして吞む事も有大凡にて吞む事にてはなし

〔茶窓閒話上〕むかしは濃茶を一人一服づゝに點しを其間あまり久しくて主客ともに退屈なりとて利休より吸茶に仕はじめられけるとなん

〔客之次第〕一茶を三すくひほど入茶入のふたをとらんやうにする時に客より御茶今少一兩度も所望する事よし亭主はまんしやく心に茶入を引ふたをとらんとする體なり

一茶は一へんにてのこらすみなむべし二へんまはす事有べからずていぢゆもすいぶんのこらぬやうに小服に立出し申にのみあまし申義は以之外の不調法也初に今少茶御入候へと申たることはみなけいはくに成申なりよく心得べき事なり

一のみじまひて下座の人其茶わんを上座へわたす是によつて手ひまなきゆへに下座より二番目の人ふくさをとつて茶ばかりを下座へ渡し下座の人茶をのむ内にふくさを亭主へわたすなり

一上座の人茶わんを請取て香をき色をほめたてやうの茶わんの内をほめ茶わんを見などして其次へ渡其次々の人も同前に見てほむるなり扱下座の人又上座へ茶わんを渡すなり上座の人また少見て亭主の初出したる所に置なり

一茶をのむに上座の人ののみたる其のみ口をちがはぬやうに其次々の人も其のみ口よりのむ事肝要にて亭主じまんして茶わんの内きれいにたてなし出したるを方々よりのみちらしさんぐのたてなしになしてあ御茶たちて候と申さるは亭主をきよくれるまかたなり